

丸太段階や製材過程で木材強度を測定し、強度の高いものを選別していくことで、公共建築物の建設に使う強度の基準を満たした製材品を効率よく揃えることができます。

研究成果の概要

1 背景・目的

スギやアカマツ等の製材品は、丸太の強度にバラツキがあり、製材してみなければ建築に必要な強度があるかどうか分かりませんでした。

そこで、生産現場（製材工場）において、強度の基準を満たした材を効率的に製造するための方法を研究しました。

2 内容

- 丸太の段階で大まかに選別するために、丸太と製材品の強度に相関があることを確認しました。
- さらに、製材過程（乾燥や仕上げの製材をする前）の強度から、出荷段階の強度を予測し、仕上げ前に正確に選別することができました。
- この方法を活用することで、製材工場では、製材品の検査における不合格品（製品ロス）を少なくすることができます。

3 活用等

- この技術とともに乾燥技術や品質管理等をまとめた「公共建築部材製造方法の手引き」を作成し、生産現場への普及を図っています。
- この技術が活用されることで、公共建築物への県産材利用が進むことが期待されます。

丸太段階の測定・選別



製材過程の測定・選別



強度の基準を満たした製材品を出荷

関連情報

- 「公共建築部材製造方法の手引き」は林業研究所ホームページから入手できます。